【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

Global Partner/Net VA

グローバルパートナー/Net VA

＊Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

2013年度
（2013年4月～2014年3月）

特別勘定の現況

決算のお知らせ

ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

平成26年4月1日から、消費税率が5%から8%に引き上げられることから、資産運用関係の費用を変更させていただきます。
13ページの「運用関係費」をご確認ください。

【利用する投資信託の委託会社】

AXA INVESTMENT MANAGERS
redefining / investment solutions

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン*／アライアンス・バーンスタイン株式会社

AllianceBernstein

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタイン*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

＊金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境　[2013年4月～2014年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、上昇しました。東証株価指数（TOPIX）は前期末比＋16．25%上昇の1，202．89ポイント（前期末は1，034．71ポイント）で終了しました。期初、日本銀行が事前予想を上回る大幅な金融緩和策を決定したことなどから大きく上昇して始まりましたが、米国の量的緩和縮小の見送りやシリア情勢の緊迫化などにより1月中旬ごろまで揉み合いながらも上昇基調で推移しました。その後、軟調な米国株式市場などを背景に下落しましたが、中国の経済指標の悪化や米国の経済指標の改善などを材料に揉み合いで推移して、今期を終えました。業種別（東証33業種）では、買収による海外事業の拡大が期待された「情報・通信業」（前期末比＋40．27%）が最も上昇した一方、前年度の大幅上昇の反動から「倉庫・運輸関連」（同△2．93%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、上昇しました。NYダウは前期末比＋12．89%上昇の16，457．66ドル（前期末は14，578．54ドル）で終了しました。今期前半は、シリア情勢の緊迫化や財政協議の先行き不透明感などから下落する局面もありましたが、好調な雇用統計や量的緩和縮小の見送りなどを受けて上昇し、揉み合いながら推移しました。今期後半は、与野党が財政協議で合意に達したことなどから上昇した後、新興国経済の先行き不透明感などから下落しましたが、ウクライナ情勢に対する警戒感の一服などから上昇基調で推移して、今期を終えました。

欧州株式市場は、上昇しました。概ね米国株式市場と同様の動きとなりましたが、金融政策を巡る動向やウクライナ情勢などにより、値動きが大きくなる局面がありました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比＋2．91%上昇、仏CAC40は同＋17．69%上昇、独DAXは同＋22．59%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、金利が上昇しました。新発10年国債利回りは0．64%となりました（前期末は0．56%）。

今期前半は、日本銀行による大幅な金融緩和策決定などを受けて金利は大幅に低下（価格は上昇）しましたが、国内株式市場の上昇などにより上昇（価格は下落）に転じ、その後、米国の量的緩和縮小見送りなどを背景に低下基調で推移しました。今期後半は、米国の金利上昇などを受けて上昇後、国債需給の逼迫などから低下し、期末は国内株式市場の下落や需給の緩みが意識され、債券先物の売りが強まったことなどから揉み合いで推移して、今期を終えました。

日本銀行は4月に金融市場調節の操作目標をマネタリーベースに変更し、マネタリーベースが年間約60～70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、金利が大幅に上昇しました。米10年国債利回りは2．72%となりました（前期末は1．85%）。今期前半は、量的緩和早期縮小観測や雇用統計の改善などを受けて、金利は大幅に上昇（価格は下落）しました。今期後半は、量的緩和縮小開始の決定などを背景に上昇後、新興国通貨の下落などを受けて低下（価格は上昇）しましたが、FRB（米連邦準備制度理事会）議長の発言により金融政策の継続性が確認されたことや好調な国債入札結果などから揉み合いで推移して、今期を終えました。

欧州債券市場は、金利が上昇しました。独10年国債利回りは1．57%となりました（前期末は1．29%）。概ね米国債券市場と同様の動きとなりましたが、期末にかけては、低下基調で推移しました。金融政策を巡る動向やウクライナ情勢などにより、金利の低下幅が広がる局面がありました。

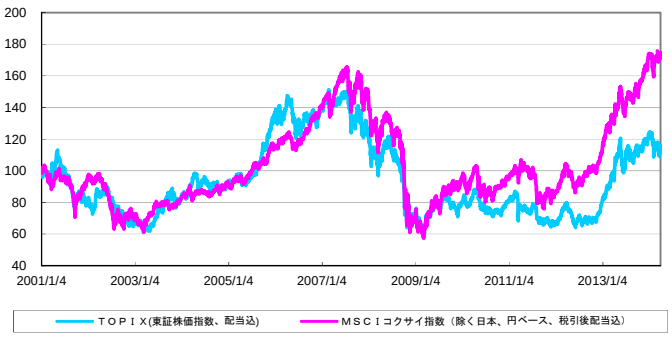
FRBは、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．00～0．25%を維持しました。ECB（欧州中央銀行）は5月と11月に政策金利を0．25%ずつ引き下げ、年0．25%としました。

【外国為替市場】

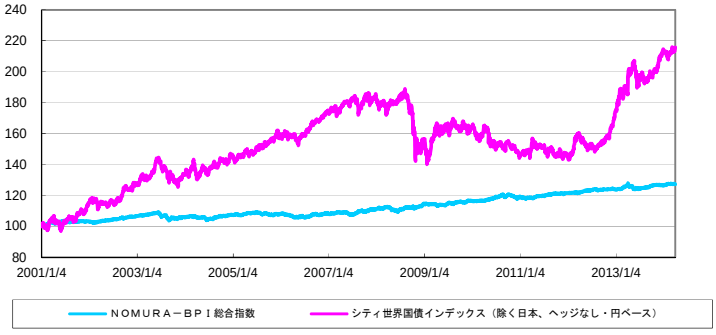
外国為替市場は、前期末比較で概ね円安となりました。米ドル／円相場は、前期末比8円87銭円安ドル高の1ドル＝102円92銭となりました（前期末比＋9．43%上昇）。今期前半は、日本銀行の大幅な金融緩和策決定などから円安が加速する一方、世界的な株安を背景に円高の動きとなるなど、揉み合いながら推移しました。今期後半は、米国で量的緩和縮小開始が決定されたことなどから円安が進行した後、米国の利上げ時期を巡る動きやウクライナ情勢などから揉み合いで推移して、今期を終えました。

ユーロ／円相場は、前期末比20円92銭円安ユーロ高の1ユーロ＝141円65銭となりました（前期末比＋17．33%上昇）。今期前半は、日本銀行の大幅な金融緩和策決定などから円安が加速した後は、金融政策を巡る動向などから円安基調で推移しました。今期後半は、ドイツ株式市場の上昇などにより円安が進行した後、ECBの金融政策の動向やウクライナ情勢などから揉み合いで推移して、今期を終えました。

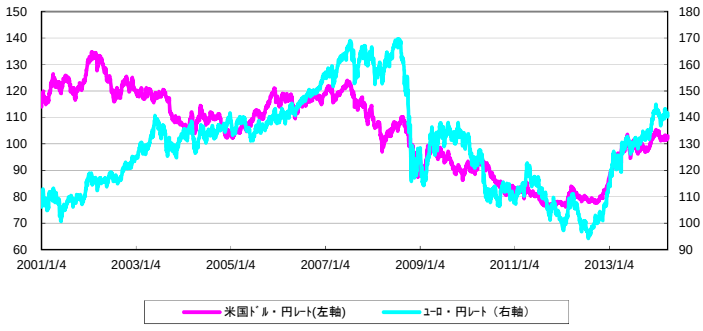
日本と外国の株式市場の推移
＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



日本と外国の債券市場の推移
＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式 30% 債券 70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション50	株式 50% 債券 50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション70	株式 70% 債券 30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
日本株式	日本株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界株式	世界株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）	アライアンス・バーンスタイン株式会社
世界債券	世界債券 100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
マネープール	短期金融資産 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

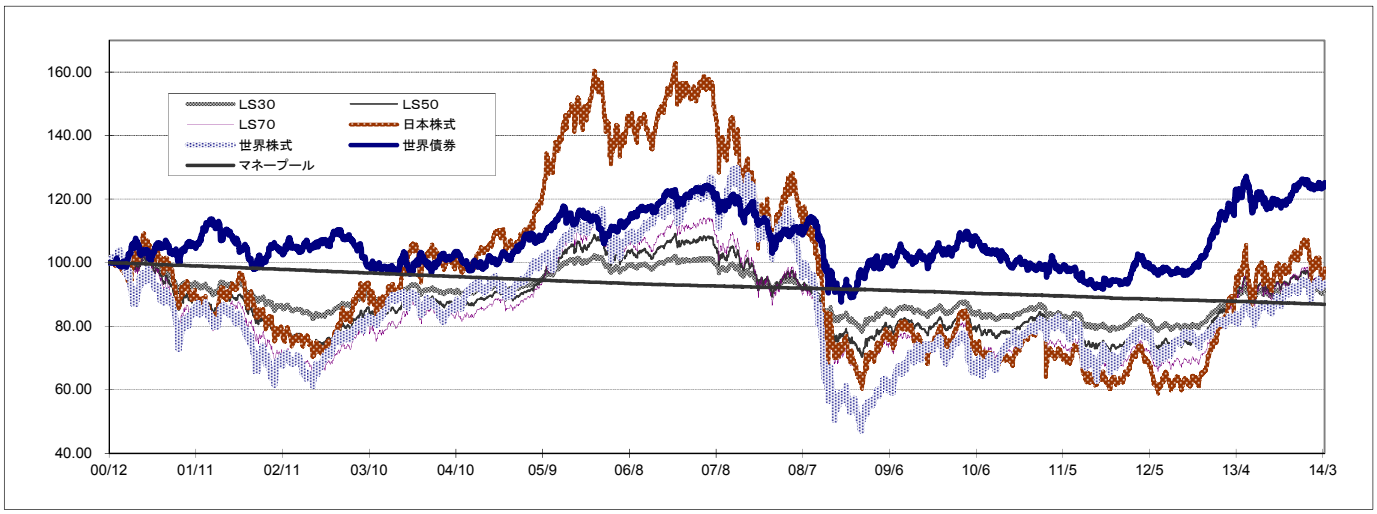
変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況　[2014年3月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



■特別勘定資産の内訳

特別勘定名	資産残高 金額（千円）
ライフ・ソリューション30	2,740,084
ライフ・ソリューション50	6,109,394
ライフ・ソリューション70	3,751,143
日本株式	3,862,600
世界株式	2,411,073
世界債券	2,456,861
マネープール	373,956

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

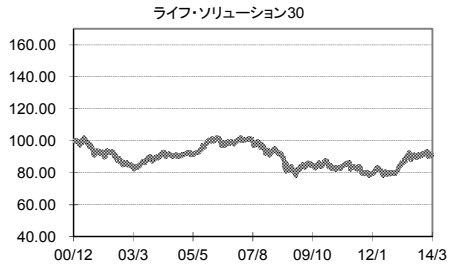
特別勘定　ライフ・ソリューション30　［ 2014年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2013年度のユニットプライスの騰落率は＋3．62%となりました。
2013年度について、米国株式市場は金融・財政政策への不透明感があったものの米国経済の緩やかな回復を背景として上昇基調となりました。特に年度前半に米FRBの早期量的緩和縮小発言から株式市場は動揺し、その後は金融政策を睨みながらの展開となりました。欧州株式市場はユーロ崩壊懸念が後退したことや他地域と比べたバリュエーション面が注目され上昇しました。日本では安倍政権による経済政策や日銀の黒田総裁による異次元緩和により株式市場は上昇しました。また円安が進んだことにより日本企業の業績の伸びが期待されたことも上昇の一因となりました。日本債券市場も経済政策と金融政策の影響を受け、若干利回りが上昇しました。利用する投資信託は、資産配分効果と銘柄選択の双方が奏功し、すべての株式への配分と銘柄選択が牽引役となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2014年3月末	91.35	過去1ヵ月	▲ 0.25
2013年12月末	93.19	過去3ヵ月	▲ 1.98
2013年9月末	90.99	過去6ヵ月	0.40
2013年6月末	89.71	過去1年	3.62
2013年3月末	88.16	過去3年	8.42
2012年12月末	83.40	設定来	▲ 8.65

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	20,738
有価証券売却益	－
有価証券評価益	113,568
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	134,306

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	114,836	4.2
その他有価証券	2,625,248	95.8
合計	2,740,084	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）〈適格機関投資家私募〉　［ 2014年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
　アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉
　に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	▲0.15%	▲1.76%	1.05%	5.10%	12.77%	6.36%
BM	▲0.17%	▲1.58%	0.98%	5.34%	12.28%	12.16%
差	0.02%	▲0.19%	0.06%	▲0.24%	0.49%	▲5.80%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。
　　合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数（TOPIX）*1	24.00%
S＆P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%
日興債券パフォーマンス・インデックス（総合・4、中期3年以上7年未満）	30.00%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	40.00%

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	23.79%
米国株式	3.00%	4.56%
欧州株式	3.00%	4.50%
日本債券	30.00%	31.42%
短期金融資産等	40.00%	35.73%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。
　　（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
　　Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション50　［ 2014年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2013年度のユニットプライスの騰落率は＋7．05%となりました。
2013年度について、米国株式市場は金融・財政政策への不透明感があったものの米経済の緩やかな回復を背景として上昇基調となりました。特に年度前半に米FRBの早期量的緩和縮小発言から株式市場は動揺し、その後は金融政策を睨みながらの展開となりました。欧州株式市場はユーロ崩壊懸念が後退したことや他地域と比べたバリュエーション面が注目され上昇しました。日本では安倍政権による経済政策や日銀の黒田総裁による異次元緩和により株式市場は上昇しました。また円安が進んだことにより日本企業の業績の伸びが期待されたことも上昇の一因となりました。日本債券市場も経済政策と金融政策の影響を受け、若干利回りが上昇しました。利用する投資信託は、資産配分効果と銘柄選択の双方が奏功し、欧米株式ファンドへの配分と銘柄選択がその牽引役となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2014年3月末	94.11	過去1ヵ月	▲ 0.36
2013年12月末	97.26	過去3ヵ月	▲ 3.24
2013年9月末	93.12	過去6ヵ月	1.06
2013年6月末	90.61	過去1年	7.05
2013年3月末	87.91	過去3年	16.99
2012年12月末	80.31	設定来	▲ 5.89

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	107,547
有価証券売却益	－
有価証券評価益	403,507
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	511,055

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション50	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	251,606	4.1
その他有価証券	5,857,788	95.9
合計	6,109,394	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）〈適格機関投資家私募〉　［ 2014年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
　アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉
　に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	▲0.26%	▲3.09%	1.73%	8.68%	21.92%	9.18%
BM	▲0.29%	▲2.77%	1.42%	8.66%	19.55%	11.59%
差	0.03%	▲0.32%	0.31%	0.02%	2.37%	▲2.41%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。
　　合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数（TOPIX）*1	40.00%
S＆P500種株価指数*2 （為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	5.00%
MSCI欧州株価指数*3 （為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	5.00%
日興債券パフォーマンス・インデックス （総合*4、中期3年以上7年未満）	25.00%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5 により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	25.00%

■当投資信託の資産配分比率　・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	40.88%
米国株式	5.00%	7.82%
欧州株式	5.00%	7.53%
日本債券	25.00%	25.06%
短期金融資産等	25.00%	18.71%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。
　　（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション70　［ 2014年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2013年度のユニットプライスの騰落率は+9.82%となりました。
2013年度について、米国株式市場は金融・財政政策への不透明感があったものの米経済の緩やかな回復を背景として上昇基調となりました。特に年度前半に米FRBの早期量的緩和縮小発言から株式市場は動揺し、その後は金融政策を睨みながらの展開となりました。欧州株式市場はユーロ崩壊懸念が後退したことや他地域と比べたバリュエーション面が注目され上昇しました。日本では安倍政権による経済政策や日銀の黒田総裁による異次元緩和により株式市場は上昇しました。また円安が進んだことにより日本企業の業績の伸びが期待されたことも上昇の一因となりました。日本債券市場も経済政策と金融政策の影響を受け、若干利回りが上昇しました。利用する投資信託は、資産配分効果と銘柄選択の双方が奏功し、特に上昇した欧米株式ファンドへの配分と銘柄選択がその牽引役となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2014年3月末	94.12	過去1ヵ月	▲ 0.41
2013年12月末	98.35	過去3ヵ月	▲ 4.29
2013年9月末	92.62	過去6ヵ月	1.63
2013年6月末	89.24	過去1年	9.82
2013年3月末	85.71	過去3年	24.27
2012年12月末	75.92	設定来	▲ 5.87

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	82,837
有価証券売却益	－
有価証券評価益	325,387
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	408,224

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション70	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	145,909	3.9
その他有価証券	3,605,233	96.1
合計	3,751,143	100.0

※ 特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）〈適格機関投資家私募〉　［ 2014年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主として
アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉
に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	▲0.31%	▲4.20%	2.32%	11.56%	29.64%	7.82%
BM	▲0.42%	▲3.92%	1.87%	11.88%	26.56%	9.79%
差	0.10%	▲0.29%	0.44%	▲0.33%	3.08%	▲1.97%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、合成ベンチマークを指します。
合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数（TOPIX）*1	55.00%
S＆P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	7.50%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	7.50%
日興債券パフォーマンス・インデックス（総合・4、中期3年以上7年未満）	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	12.50%

■当投資信託の資産配分比率　・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	55.90%
米国株式	7.50%	10.06%
欧州株式	7.50%	10.48%
日本債券	17.50%	16.89%
短期金融資産等	12.50%	6.67%
合計	100.00%	100.00%

※ 各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。
（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　日本株式　［ 2014年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2013年度のユニットプライスの騰落率は＋11．30%となりました。
2013年度の日本株式市場は、前年度末比で上昇となりました。利用する投資信託については、ベンチマーク比でマイナスとなりました。主なマイナス要因としては、当期の日本株式市場は配当利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、これらの銘柄を多めに保有していたこと、業種別では上昇したITハードウェアを少なめに保有していたことや相対的に下落したREIT、銀行を多めに保有していたことです。また、個別銘柄では上昇したソフトバンクを少なめに保有していたことや、下落したダイハツ工業、大塚ホールディングスを多めに保有していたこともマイナスに寄与しました。今後も引き続き当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

日本株式			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2014年3月末	98.20	過去1カ月	▲ 1.39
2013年12月末	106.29	過去3カ月	▲ 7.61
2013年9月末	97.58	過去6カ月	0.64
2013年6月末	93.84	過去1年	11.30
2013年3月末	88.23	過去3年	34.25
2012年12月末	72.48	設定来	▲ 1.79

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	113,972
有価証券売却益	－
有価証券評価益	371,213
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	485,185

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	日本株式	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	166,406	4.3
その他有価証券	3,696,193	95.7
合計	3,862,600	100.0

※ 特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）《適格機関投資家私募》　［ 2014年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）《適格機関投資家私募》
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※ 当投資信託は、主として
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券《適格機関投資家私募》に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲1.35%	▲7.66%	1.33%	13.23%	40.64%	17.94%
BM	▲0.72%	▲7.63%	0.74%	16.25%	38.36%	▲6.70%
差	▲0.62%	▲0.02%	0.60%	▲3.02%	2.28%	24.64%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。
ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）[*1]です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○ 組入上位10銘柄

	銘柄	業種	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.35%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	3.37%
3	日本電信電話	情報・通信業	3.25%
4	キヤノン	電気機器	3.22%
5	KDDI	情報・通信業	3.02%
6	NTTドコモ	情報・通信業	2.85%
7	パナソニック	電気機器	2.66%
8	東海旅客鉄道	陸運業	2.60%
9	オリックス	その他金融業	2.26%
10	大塚ホールディングス	医薬品	2.21%
合計			29.78%
組入銘柄数			115銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

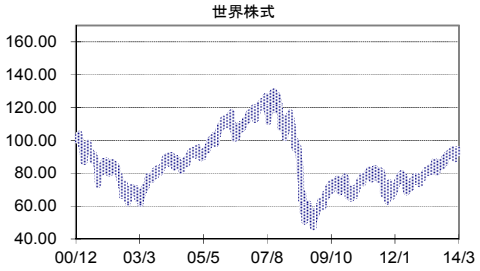
特別勘定　世界株式　［ 2014年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2013年度のユニットプライスの騰落率は＋13．43%となりました。
当期の世界の株式市場は、米国量的緩和策の縮小開始時期や中国経済減速に対する懸念などから調整する局面があったものの、好調な欧米の経済指標や企業決算などを背景に総じて堅調に推移しました。利用する投資信託のベンチマークとの比較では、セクター配分、銘柄選択共にマイナスとなりました。セクター配分では、生活必需品セクターを高めに組入れていたことなどがマイナスとなりました。銘柄選択では、情報技術セクターや生活必需品セクターにおける選択が主なマイナス要因となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



世界株式			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2014年3月末	93.72	過去1ヵ月	0.09
2013年12月末	94.42	過去3ヵ月	▲ 0.74
2013年9月末	88.21	過去6ヵ月	6.25
2013年6月末	82.59	過去1年	13.43
2013年3月末	82.62	過去3年	15.84
2012年12月末	77.13	設定来	▲ 6.27

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	37,741
有価証券売却益	－
有価証券評価益	293,570
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	331,312

■特別勘定資産の内訳

項目	世界株式	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	99,042	4.1
その他有価証券	2,312,030	95.9
合計	2,411,073	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）　［ 2014年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。
※　当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.19%	▲0.47%	7.20%	15.46%	20.80%	9.76%
BM	▲0.11%	1.07%	7.99%	18.72%	34.51%	52.17%
差	0.30%	▲1.54%	▲0.79%	▲3.25%	▲13.71%	▲42.41%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス*6（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1	ボーイング	アメリカ	資本財・サービス	航空宇宙・防衛	2.13%
2	アップル	アメリカ	情報技術	コンピュータ	2.00%
3	ロシュ・ホールディング	スイス	ヘルスケア	医薬品	1.69%
4	エクソン・モービル	アメリカ	エネルギー	石油・ガス	1.40%
5	サフラン	フランス	資本財・サービス	航空宇宙・防衛	1.38%
6	ウォルト・ディズニー	アメリカ	一般消費財・サービス	メディア	1.36%
7	グーグル	アメリカ	情報技術	ソフトウェア・サービス	1.31%
8	ウェルズ・ファーゴ	アメリカ	金融	商業銀行	1.29%
9	パーカー・ハネフィン	アメリカ	資本財・サービス	機械	1.17%
10	マイクロソフト	アメリカ	情報技術	ソフトウェア	1.10%
合計					14.82%
組入銘柄数					238銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界債券　［ 2014年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2013年度のユニットプライスの騰落率は＋7．65%となりました。
当期の当投資信託では、投資適格社債、カバードボンドおよび政府関連債の銘柄選択、ユーロ圏における国別配分がマイナス寄与となりました。一方、投資適格社債への多めの配分によるセクター配分はプラス寄与となりました。米国の強制的な歳出削減がなくなったことなどにより、2014年の米国の実質国内総生産(GDP)成長率は昨年を上回ると見ています。一方、ユーロ圏はデフレ懸念が高まり、ECBをはじめユーロ圏の各国中央銀行は引き続き緩和的な政策を継続すると考えられます。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

世界債券			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2014年3月末	125.21	過去1ヵ月	0.77
2013年12月末	126.21	過去3ヵ月	▲ 0.79
2013年9月末	118.54	過去6ヵ月	5.63
2013年6月末	119.42	過去1年	7.65
2013年3月末	116.31	過去3年	25.60
2012年12月末	107.43	設定来	25.21

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	97,948
有価証券売却益	－
有価証券評価益	－
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	39,115
有価証券評価損	▲ 157,513
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	216,345

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	世界債券	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	117,158	4.8
その他有価証券	2,339,703	95.2
合計	2,456,861	100.0

※　特別勘定で利用している外国投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アライアンス・バーンスタイン―グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）　［ 2014年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アライアンス・バーンスタイン―グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
【運用方針】
主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70%以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。
※　当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲0.05%	1.75%	1.09%	▲0.18%	5.83%	127.12%
BM	0.10%	2.04%	2.26%	1.32%	13.77%	152.58%
差	▲0.15%	▲0.29%	▲1.17%	▲1.50%	▲7.93%	▲25.46%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（1996年11月20日）を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、バークレイズ・グローバル総合インデックス*7です。

■当投資信託の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○　組入上位10債券種類

	銘柄	国名	格付		投資信託
			ムーディーズ	S&P	
1	アメリカ国債(5/15/17-8/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	4.57%
2	オーストラリア国債(2/15/17)	オーストラリア	Aaa	AAA	3.67%
3	アメリカ国債(11/15/16)	アメリカ	Aaa	AA+	3.18%
4	アメリカ国債(11/15/18)	アメリカ	Aaa	AA+	2.44%
5	日本国債(1/15/15)	日本	Aa3	AA-	2.42%
6	アメリカインフレ連動債(4/15/16)	アメリカ	Aaa	AA+	2.12%
7	イタリア国債(2/1/17)	イタリア	Baa2	BBB	1.95%
8	オランダ国債(7/15/17)	オランダ	Aaa	AA+	1.94%
9	オーストリア国債(9/15/16)	オーストリア	Aaa	AA+	1.67%
10	アメリカ国債(8/15/17)	アメリカ	Aaa	AA+	1.60%
合計					25.56%

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2013年4月～2014年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

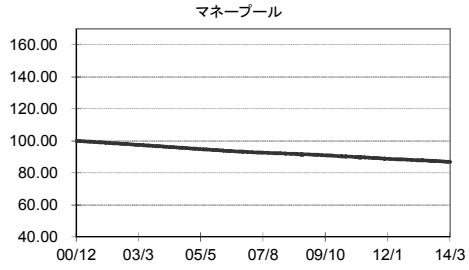
特別勘定　マネープール　［ 2014年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2013年度のユニットプライスの騰落率は▲1．06%となりました。
2013年度初めに、黒田日銀総裁による新体制発足後初となる金融政策決定会合で、マネタリーベースを今後2年間で2倍にすることや長期国債買入れの拡大と年限の長期化等を盛り込んだ積極的な金融緩和策を決定しました。これを受けて日本国債利回りはそれまでの低下傾向から上昇傾向に転じました。しかしながら、米国の量的緩和縮小への警戒感からリスク回避傾向となり利回りは低下傾向となりました。また日銀が国債市場の安定を図るための国債買入の改善策を講じたことも国債利回りの低下に影響しました。年度を通じてみると、日本短期債券市場は前年度末と同水準の利回りレベルとなりました。利用する投資信託では、社債での運用がプラスに貢献し、年度のリターンはベンチマークを上回る結果となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



マネープール			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2014年3月末	86.91	過去1ヵ月	▲ 0.10
2013年12月末	87.16	過去3ヵ月	▲ 0.29
2013年9月末	87.40	過去6ヵ月	▲ 0.56
2013年6月末	87.63	過去1年	▲ 1.06
2013年3月末	87.84	過去3年	▲ 3.07
2012年12月末	88.04	設定来	▲ 13.09

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	915
有価証券売却益	－
有価証券評価益	▲ 427
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	487

■特別勘定資産の内訳

項目	マネープール	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	41,027	11.0
その他有価証券	332,928	89.0
合計	373,956	100.0

※ 特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉　［ 2014年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	1.09年	51.26%
短期資産等	0.45年	48.74%
合計	0.78年	100.00%

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。
※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.00%	0.01%	0.04%	0.15%	0.54%	2.17%
BM	0.01%	0.02%	0.04%	0.07%	0.23%	1.60%
差	▲0.01%	▲0.01%	0.00%	0.07%	0.31%	0.57%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート[*5]により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・ 5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険

用語説明

＊1「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下㈱東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は
スタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、
わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、
委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、
金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

＊5「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。
このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。

＊6「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc. が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス(税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース)は、MSCIワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに、為替ヘッジにかかる費用相当分を考慮して委託会社が円ヘッジベースに換算したものです。

＊7「バークレイズ・グローバル総合インデックス」は、バークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社(バークレイズ)が開発、算出、公表を行う
インデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズに帰属します。

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。
特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、
株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。
特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

＜年金支払開始日前＞

●特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用（増額費用）	特別勘定繰入前	保険料の**2．0%**	保険料から契約初期費用として2．0%が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。(増額費用も同じ)
保険契約管理費（積立金比例額）	毎日	特別勘定の積立金総額に対して**年率1．2%**＊	当社の経費に充当されます。(基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。)

＊　毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1．2%の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費（件数比例額）	月単位の契約応当日	毎月　**100円**	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目**1,500円** 2回目以降は1回につき**2,300円**(*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は**無料** 2回目からは1回につき**800円**(*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日 および 貸付金の返済時	貸付金額の年利**1．2%**	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。

※ 13ページ【変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②】へ続きます。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②

解約控除	解約時	積立金額の **8．0%～0．8%**	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の **8．0%～0．8%**	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数
※ 貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。
※ 将来、上記の内容が変更になることがあります。

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 **年率0．945%程度（～3/31）** **年率0．972%程度（4/1～）** （税抜0．900%程度）	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 **年率1．050%程度（～3/31）** **年率1．080%程度（4/1～）** （税抜1．000%程度）	
		ライフ・ソリューション70 **年率1．155%程度（～3/31）** **年率1．188%程度（4/1～）** （税抜1．100%程度）	
		日本株式 **年率0．840%程度（～3/31）** **年率0．864%程度（4/1～）** （税抜0．800%程度）	
		世界株式 **年率0．8925%程度（～3/31）** **年率0．918%程度（4/1～）** （税抜0．850%程度）	
		世界債券 **年率0．460%程度** *1	
		マネープール **年率0．034125%～年率0．483000%程度（～3/31）** **年率0．035100%～年率0．496800%程度（4/1～）** （税抜0．0325%～0．4600%程度） *2	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。
信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。
また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。
これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。
管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。
その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがありますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

＜年金支払開始日以後＞

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の 契約応当日	支払年金額の**1．0%**	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。